

ノーリフティングケアの取り組み 2年目の3つの変化

～振り向けば当たり前になっている
ノーリフティングケア～



社会福祉法人
佐与福祉会
特別養護老人ホーム
ことぶきの森

2年目を迎えたことぶきの森の状況

令和3年度に福岡県ノーリフティング推進事業に参加。1年目にマネジメントを受け令和4年度ことぶきの森として、2年目を迎えた。今回2年目を終えた中で3つの**変化が生まれ**てきました。

3の変化

- ・組織の変化
- ・リフトの活用
- ・技能実習生の受け入れ

具体的内容

- ・腰痛面談にて腰痛への意識が変化し訴えやすい環境へ変化
- ・リフトの使用率の増加と共に意識が変わり抱え上げを少なくしようとする考えへスイッチする
- ・技能実習生の受け入れに伴う教育体制
誰もが働けるように、教育する

職員の抱え上げに対する**姿勢**や、福祉用具の**管理**等、ノーリフティングを**取り組む体制**が少しずつ変化していく。

組織の変化(腰痛があっても安心して働ける職場)

取り組み前



- ・腰が痛いのが休めない
- ・腰痛になっても仕方がないと思っていた
- ・自分が休むと他の職員に迷惑が掛かる

取り組み後



- ・年2回の腰痛調査と面談にて**腰痛を意識**するようになった
- ・腰痛の取り組みが進み意識が変わる
- ・**休みやすい環境**へ(自分の腰痛レベルがわかる)
- ・1人が休んでも**チームでカバー**する

ノーリフティングケアに取り組んで本当によかた心の叫び！

令和4年6月から3名の技能実習生(ミャンマー国籍)

技能実習生の受け入れ(教育)

PDCA

技能実習生
女性2名 男性1名
★興味があるものには、色々
と挑戦したい思いがある



- ・研修項目にノーリフティングケアを盛り込む(6月)
- ・理解度チェック実施(8月)
- ・理解度チェック実施(10月)
- ・アンケートの実施(12月)
(腰痛アンケート)
- ・実技を教育することぶきの森で優先順位の高い床走行式リフトから教育

今では**3人マスター**し現場で実施中

3名 リフトを使いこなし、現場で活躍中。
リンさん・ムーレーさん・シュエさん



技能実習生の教育

ノーリフティングケアの教育とマッチング

- 腰が痛くならない様に教育（早い段階からノーリフティングケアを学んでもらう）
- わかりやすくゆっくりと教える
- 何度も理解できるまで教える
- 実践をまじえて教える

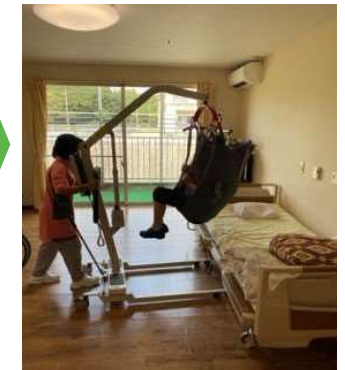
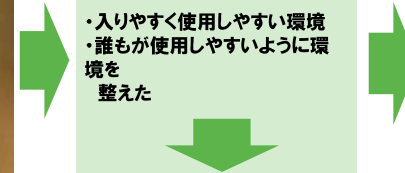


- 効果として
技能実習生を教えることで、
他の職員も学び教育もスムーズになってきました。

リフトの活用(誰もが使用しやすくする環境作り)

PDCA

- ユニット中心部から使用場所に移動し使用
- 管理ボックスを設置する
管理表を作成しチェック
- 入りやすく使用しやすい環境
誰もが使用しやすいように環境を整えた



リフトの使用率の増加

取り組み後の変化

組織の変化(腰痛への理解)

- 職員自身の健康に対する意識の向上
- 休みにくい環境から休みやすい環境へ

技能実習生の受け入れ

- ノーリフティングケアを研修項目に盛り込み研修実施
- 理解度チェックを繰り返す
- 床走行式リフト教育
- 全職員にて、施設全体で教育し共に学んでいる

リフトの活用

- 抱え上げの削減

職員自身の健康に対する意識の向上

- 定期的な腰痛面談・腰痛アンケートの実施

腰痛面談等にて、腰痛に対する意識
がかわり職場環境が良くなった

技能実習生を教育する事で、教育の在
り方を再確認

腰痛に関する理解

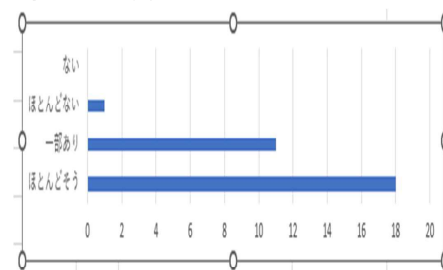
腰痛があっても安心して働ける施設

腰痛調査

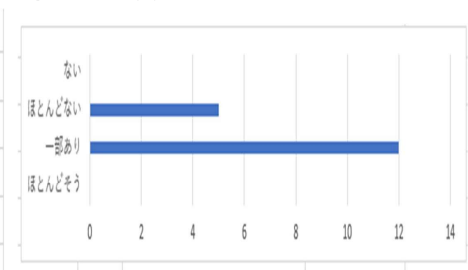
抱え上げの削減 (アンケート結果)

「ほとんどがそう」が **80%→0%** に減少

令和3年度



令和4年度



抱え上げが削減できた理由

- 腰痛面談、腰痛アンケートにより腰痛に対する意識の向上
 - 技能実習生を教育する事で、**教育の在り方**を再確認出来た
 - 理解度チェックを繰り返し**、職員同士で技能実習生を含めて腰痛への理解が構築されていった
 - 自分の身体を守るには、どうしたら良いのかを考えだした。
- ↓
- 職員1人1人が、これまで当たり前に行っていた抱え上げに関して考える事でどうやったら抱えないで良いのかを考えるようになりました。今後は、「1部あり」を少しずつ減らしていく。

福祉用具の確認

- 福祉用具は、**揃っている**
 - 福祉用具の**管理**(シート洗濯等)が出来ている
 - 福祉用具の配置が適している**場所**にある
 - 職員の方から、車椅子の**点検**をして欲しいと依頼
 - 職員で行っていた点検だけでなく**業者**に点検してもらう
- ↓
- 職員の言葉の変化**
- 「車椅子は、入居者の方々の足と一緒に移動手段である為、メンテナンスを定期的に行ってほしい」と相談あり。



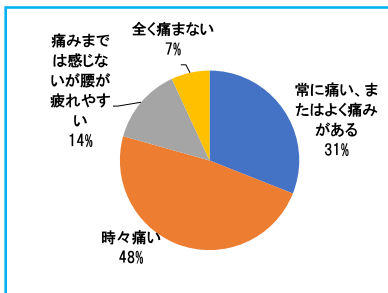
取り組み前にはなかった言葉。

腰痛アンケートの比較

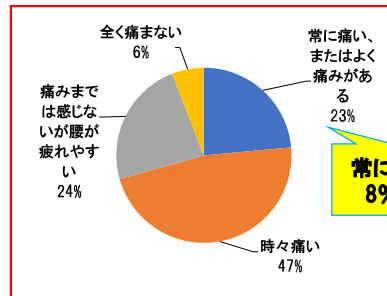
結果

- 「常に痛い」は8%減少。
 - 「痛みまでないが、腰が疲れやすい」が10%増加。その要因として以下の事が考えられる
- ①令和4年12月の腰痛調査3か月前から、新型コロナによる職員の陽性者・濃厚接触者による人手不足が深刻となり、さらに、病欠者等による長期休暇職員も2名発生し、他の職員への業務負担が増大し、疲労感へ響いたことが推測された。

令和3年12月調査結果



令和4年12月調査結果



最終的なことぶきの森の目標として～



腰痛が、あっても安心して働ける施設



令和4年度の達成目標
ノーリフティングケアが当たり前のケアとして浸透し定着させる

課題

- 教育計画の見直し
- マニュアルの作成(見直し)
- 跳ね上げ車椅子導入

今年度の成果

- 抱え上げの削減
- 福祉用具管理
- 職員自身の健康に対して意識の向上

2年目のスタート



まだまだ2年目これから、もっとノーリフティングケアに力を入れ何年かかるかわからないが、腰痛があっても安心して働ける施設を目指していきます。